

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 14 日現在

機関番号：37116

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2015

課題番号：23792761

研究課題名(和文) 未就学児を育児中の労働者のワーク・ライフ・バランスに関する研究

研究課題名(英文) A survey on work-life balance of working parents with preschool children

研究代表者

久保 陽子(安井陽子)(KUBO, Yoko)

産業医科大学・産業保健学部・助教

研究者番号：90412668

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：未就学児を育児中の988世帯を対象として、乳幼児を育児中の親のワーク・ライフ・バランスと精神健康度に関する実態調査を実施した。調査に参加した694名(男性267名、女性427名)の回答を分析した。その結果、良好な精神健康度は良好なワーク・ライフ・バランス、仕事-家庭関係のネガティブな波及の低さ、近所づきあいの程度の深さとの関連が認められた。このことから、未就学児を育児中の親の精神健康度を良好に保つためには、職場と家庭だけでなく、地域の視点も含めた検討が必要であることが示された。

研究成果の概要(英文)：To clarify the effects of work-life balance and neighborhood relate on depressive symptoms (as measured by k6), of working parents, a survey was conducted among 988 families. A total of 694 parents (267 males, 427 females) responded to the survey. Participants were divided into two according to the work-life balance score (Yes/No), better work-life balance and neighborhood relationship were associated with decreased depressive symptoms. In conclusion, to maintain good mental health status, it is recommended to keep good work-life balance as well as good neighborhood relationships among working parents.

研究分野：精神保健

キーワード：ワークライフバランス 精神健康度 未就学児 育児中の親 SOC ソーシャルキャピタル

1. 研究開始当初の背景

労働力人口が確実に減少していく本邦において、経済の活力を維持し、さらに少子化にも歯止めをかけるという困難な課題を実現するためには仕事と家庭の両立環境や子育て支援環境を整えて働き方を見直すとともに、家族を“個”の存在ではなく地域(“公”)の一員として捉えて希薄化してしまった地域社会のつながり(social capital;以下SC)を再構築していく必要がある。

1997年以降、single-earnerより共働き家庭が上回り、勤労者世帯の過半数が共働き世帯になる等人々の生き方が多様化している。このような現状の中、我が国では、「男は仕事、女は家庭」といった性別役割分業意識が未だに深く根付いており、妻の就労の有無による夫の家庭内役割が大きく異なることが予測される。しかし、我が国において妻の就労の有無による夫の精神健康度やワーク・ライフ・バランス(以下、WLB)の実態を報告したものは認めない。

未就学児を育児中の親のWLB、特に、仕事と家庭だけでなく地域の視点も含めた実態を解明し、さらに、精神的健康を良好に保つための影響要因を解明することは、未就学児を育児中の働き盛りの世代が良好な精神的健康を保つために重要な課題である。

2. 研究の目的

乳幼児を育児中の世帯の精神健康度とワーク・ライフ・バランスを職場と家庭だけでなく、地域の視点も含めて実態を解明する。さらに、妻の就労の有無による、夫の精神健康度とWLBの関連を明らかにし、精神健康度を良好に保つための要因を解明する。

3. 研究の方法

(1) 共働き家庭のWLBと精神健康度

K市内の保育園児の保護者を対象とし、398世帯(796部配布)に自記式質問紙による調査を行った。調査項目は、WLBのほか、精神健康度(K6)、仕事-家庭関係(SWING-J)、SC(個人、職域、地域)、ストレス対処力(SOC-13)を用い、精神健康度を良好に保つための要因を検討した。

(2) 妻の就労の有無による夫のWLBと精神健康度

対象はK市内の保育園児、幼稚園児の保護者988世帯(1976部配布)とし、自記式質問紙による調査を行った。調査項目は、保育園調査同様にWLB、精神健康度(K6)、仕事-家庭関係、SC(個人、職域、地域)、ストレス対処力(SOC-13)を用い、実態解明と精神健康度への影響要因を検討した。

4. 研究成果

(1) 共働き家庭のWLBと精神健康度

K市内の保育園児の保護者398世帯(796部配布)に自記式質問紙による調査を行った結

果、312名(39.2%)、男性114名(28.6%)、女性198名(49.7%)から回答が得られた。

精神健康度(K6)は男性5.11±5.24、女性4.27±4.03で性差を認めなかった。WLBがとれていると回答した割合は男性60.5%、女性71.7%で有意差を認めた(p<0.05)。生活満足度、SOCは性差を認めなかったが、就業形態は男性の96.5%が正規職員であるのに対し、女性は正規職員が49.0%、非正規職員が45.0%だった(p<0.001)。1週間の就業時間の合計は、男性の約85%が40時間以上だったのに対し、女性は約35%で男性の就業時間が有意に長かった(p<0.001)。

SWING-J、K6、SOC、SCの結果を性別に表1に示した。仕事から家庭へ、家庭から仕事へのネガティブな影響を示すWork to Family negative spillover (WFNS)/Family to Work negative spillover (FWNS)はともに男性の方が有意に高く(p<0.05)、仕事から家庭へのポジティブな影響を示すWork to Family positive spillover (WFPS)は女性の方が高い傾向を示した(p<0.1)。合計点が高いほど精神健康度の不良さを示すK6の平均点は男性の方が高かったが、K6、SOCともに性差による有意差を認めなかった。職場SC(p<0.05)、地域SC(p<0.001)は女性が有意に高かった。

表1. 仕事-家庭関係と精神健康度

		男性		女性		p
		mean	±SD	mean	±SD	
SWING-J	WFNS	2.7	1.8	2.2	1.5	0.012
	FWNS	1.2	1.6	0.7	1.0	0.014
	WFPS	5.7	2.7	6.3	2.5	0.065
	FWPS	7.2	3	7.7	2.6	0.277
K6		5.1	5.2	4.3	4.0	0.529
SOC		43.1	7.8	44	8.2	0.344
個人SC		27.7	5	28.7	4.6	0.101
職場SC		26.1	7.3	28.2	7.3	0.019
地域SC		30.1	6.9	33.3	7.2	0.000

Mann-Whitney U検定

仕事-家庭関係は女性が男性よりポジティブな影響が高く、反対にネガティブな影響は男性が高いことが示された。WFPSの内容として、「職場でよい1日を過ごした後は、より家族と関わりたい気分になる」や「仕事で培ったスキルによって、家庭での作業(家事など)もより上手くこなすことができる」があることから、女性の方が仕事での経験が家庭に活かされる機会が多いことが考えられる。反対に、「仕事が大変で家庭でイライラする」や「仕事のスケジュールのために、家庭でやるべきことを遂行するのが難しい」といったWFNSの高さは、就業時間の長さなどの労働条件による影響も考えられる。

K6は男女ともにWFNS/FWNSと正の相関を認め、男性のみ、WFPS/FWPSと負の相関を認め

た(表2)。個人 SC は K6 の負の相関を認め、職場 SC は女性のみ K6 と負の相関を認めた。

表2. 仕事-家庭関係と精神健康度の関連

	K6		SOC	
	男性	女性	男性	女性
K6	1	1	-.645***	-.633***
WFNS	.522***	.404***	-.456***	-.481***
FWNS	.396***	.324***	-.393***	-.390***
WFPS	-.266**	-.092	.379***	.214**
FWPS	-.220*	-.062	.279**	.247**
SOC	-.645***	-.633***	1	1
個人SC	-.200*	-.262***	.271**	.372***
職場SC	-.062	-.195**	.330***	.348***
地域SC	-.041	-.083	.092	.114

Spearman の相関係数 *p<0.05, **p<0.01, ***p<0.001

K6 のカットオフ値で2群に分類したものを従属変数とし、相関を認めなかった地域 SC を除外した項目を投入し、年齢、学歴を調整した上でロジスティック回帰分析した結果、男性は Work to Family negative spillover、SOC が抽出され、女性は Family to Work negative spillover、SOC が抽出された(表3)。男性は仕事による家庭へのネガティブな影響、女性は家庭による仕事へのネガティブな影響が高いほど、精神健康度を不良にすることが示された。

表3. K6 を従属変数としたロジスティック回帰分析

		p	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
				下限	上限
男性	WFNS	.037	1.561	1.028	2.370
	SOC	.000	.815	.732	.908
女性	FWNS	.034	1.558	1.034	2.348
	SOC	.000	.842	.791	.897

以上の結果から、精神健康度に性差を認めなかったが、SOC の高さだけでなく、男性は仕事による家庭へのネガティブな影響が低いこと、女性は家庭による仕事へのネガティブな影響が低いことが精神健康度を良好に保つための要因として認められた。

(2) 妻の就労の有無による未就学児を育児中の親の精神健康度

K 市内の幼稚園児・保育園児の親 988 世帯を対象とした、乳幼児を育児中の親のワーク・ライフ・バランスと精神健康度に関する実態調査の結果、694 名(男性 267 名、女性 427 名)から回答が得られた(回収率 35.1%)。

妻の就労の有無での内訳は、就労中の妻の夫 160 名(23.1%)、専業主婦の夫 107 名(15.1%)、就労中の妻 267 名(38.5%)、専業主婦 160 名(23.1%)だった。

妻の就労の有無による精神健康度は、専業

主婦の夫が最も良好で、次いで就労中の妻、就労中の妻の夫、専業主婦だった(p<0.01)(表4)。SOC は専業主婦が最も低かったが、有意差を認めなかった。

表4. 妻の就労の有無による精神健康度

		mean	SD	p
K6	就労妻の夫	4.81	5.16	0.002
	専業主婦の夫	3.26	4.02	
	就労妻	4.39	4.43	
	専業主婦	4.96	4.47	
soc	就労妻の夫	43.10	7.99	0.285
	専業主婦の夫	43.09	6.95	
	就労妻	43.61	8.46	
	専業主婦	41.95	8.20	

Kruskal-Wallis

共働き夫婦では親戚付き合いが全くないと回答した割合が 22.4%、専業主婦の夫婦は 13.8%で、親戚づきあいの頻度に有意差を認めた(p<0.05)。近所づきあいが全くないと回答したのは、共働き夫婦が 5.2%に対し、専業主婦の夫婦は 14.9%で有意差を認めた(p<0.001)。居住区は子育てがしやすいと回答したのは、共働き夫婦 55.4%、専業主婦の夫婦 45.8%で有意差を認めた(p<0.001)。育児が地域で支えられていると感じている割合は、共働き夫婦が 36.3%、専業主婦の夫婦は 28.8%で有意差を認めた(p<0.05)。

共働き世帯の方が専業主婦世帯より近所づきあいがあり、育児も地域に支えられていると感じている割合が高かった。共働き世帯は、時間的な問題からも、やむを得なく社会資源や地域に頼りながら子育てをする状況ができていくが、反対に専業主婦世帯はそのような状況が少ないために、他者に頼らず自分たちで解決しようとしている傾向が強いことが考えられる。

精神健康度に対する影響要因を検証するために、精神健康度と相関関係を認めた項目を投入し、年齢、学歴を調整した上でロジスティック回帰分析した結果を表5に示した。K6 に対する共働き夫婦のオッズ比は 6.22、FWNS は 2.64、WFNS は 2.42 で、共働きであること、仕事から家庭へ、家庭から仕事へのネガティブな影響が大きいほど、精神健康度は不良であることが示された。反対に、職場 SC のオッズ比は 0.90、SOC は 0.79、大人と子どもが挨拶をよく交わしている地域であることのオッズ比は 0.38、Work Life Balance のオッズ比は 0.07 だったことから、職場の人間関係を含む職場環境が良好であること、SOC が高いこと、大人と子どもが挨拶をよく交わしている地域に住んでいること、ワーク・ライフ・バランスがとれていることが、精神健康度を良好にする要因であることが示された。

表 5 . 精神健康度の影響要因

	p	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
			下限	上限
共働き夫婦	.013	6.223	1.474	26.270
FWNS	.002	2.644	1.437	4.866
WFNS	.001	2.415	1.460	3.993
職場SC	.058	.898	.803	1.004
soc	.000	.788	.693	.896
地域あいさつ	.014	.380	.176	.822
WLB	.009	.065	.008	.499

(3) 未就学児の父親の WLB と精神健康度

K 市内の幼稚園児・保育園児を持つ親を対象にした調査によって得られた結果から、男性のみを抽出し分析した結果、就労中の妻の夫は 160 名(59.9%)、専業主婦の夫は 107 名(40.1%)だった。対象は全員就労者であった。

1 週間の就業時間は妻の就労の有無に関わらず、いずれも 40~60 時間が最も多かった。ワーク・ライフ・バランスがとれていると回答したのは、就労中の妻の夫 60.6%、専業主婦の夫 65.1%だったが、有意差は認めなかった。

K6 と SOC は妻の就労の有無に関わらず強い負の相関を認めた ($r=-0.604/-0.486$, $p<0.001$) (表 6)。K6 と仕事-家庭関係の Work to Family Negative Spillover は正の相関を認めたが、妻が就労している夫 ($r=0.576$, $p<0.001$) のほうが、専業主婦の夫 ($r=0.256$, $p<0.01$) より強い相関を示した。Family to Work negative spillover は妻の就労の有無に相違なく K6 と正の相関を示した ($p<0.05$)。Family to Work positive spillover は専業主婦の夫のみ K6 と負の相関を認めた ($p<0.05$)。職場 SC は妻の就労の有無によらず K6 と負の相関を示した ($p<0.05$)。

表 6 . 妻の就労の有無別による夫の精神健康度との関連

	K6	
	妻就労	非就労
K6	1	1
SOC	-.604***	-.486***
WFNS	.576***	.256**
FWNS	.326*	.245*
WFPS	-.142	-.057
FWPS	-.190	-.205*
職場SC	-.235**	-.208*
地域SC	-.034	-.038

Spearman の相関係数

* $p<0.05$, ** $p<0.01$, *** $p<0.001$

未就学児を持つ男性の精神健康度の影響要因を検証するために、K6 と相関関係を認めた項目を投入し、年齢、学歴を調整した上でステップワイズ法によるロジスティック回帰分析した結果、WFNS のオッズ比は 2.45 で、

仕事による家庭へのネガティブな影響が高いほど精神健康度を不良にすることが示された (表 7)。精神健康度を良好に保つための要因として、SOC が高いこと、仕事による家庭へのネガティブな影響が低いこと、ワーク・ライフ・バランスがとれていること、近所づきあいの程度が深いことが認められた。

表 7 . 男性の K6 を従属変数としたロジスティック回帰

	p	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
			下限	上限
SOC	.003	.588	.415	.831
WFNS	.022	2.447	1.137	5.266
WLB	.032	.015	.000	.702
近所付合程度	.031	.017	.000	.694

未就学児を育児中の親の精神健康度を良好に保つためには、大人と子どもが挨拶をよく交わしている地域に住んでいること、近所づきあいの程度が深いこと、などの関連も認められ、職場と家庭だけでなく、地域の視点も含めた検討が必要であることが示された。

5 . 主な発表論文等

[学会発表](計 5 件)

1. 久保陽子, 小林敏生: 仕事と家庭の多重役割を持つ親の SOC とソーシャル・キャピタルの関連. 第 86 回日本産業衛生学会, 2013 年 5 月 15~17 日, ひめぎんホール(愛媛・松山市).

2. Kubo Y, Kobayashi T, Nakata A. Relationships between Work-Family Spillover and Sense of Coherence in Workers with Preschool Children in Japan. The 21st IUHPE World Conference on Health Promotion, 25-29 August, 2013, Pattaya, Thailand.

3. 久保陽子, 小林敏生: 妻の就労の有無による未就学児を育児中の父親の精神的健康度に対する仕事-家庭関係と SOC の関連. 第 78 回民族衛生学会, 2013 年 11 月 15 日~16 日, 佐賀大学(佐賀・佐賀市).

4. 久保陽子, 小林敏生: 未就学児を育児中の労働者のソーシャル・キャピタルと精神的健康度の関連. 第 9 回広島保健学会学術集会, 2012 年 9 月 30 日, 広島大学広仁会館(広島・広島市).

5. 久保陽子, 小林敏生: 仕事と家庭の両立によるポジティブ作用と SOC の関連. 第 77 回日本民族衛生学会, 2012 年 11 月 16 日~17 日, 東京大学山上会館(東京・文京区).

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

久保 陽子 (KUBO Yoko)

産業医科大学・産業保健学部・助教

研究者番号: 90412668